

67期「班新聞

モクモクファームに行ってみた！

モクモクファームは動物とのふれあいやウインナーなどの手づくり体験やレストラン、さらに宿泊やお買い物などの魅力が詰まった農業公園です。モクモクファームにはミニプラタ約10頭、馬約10頭、ヤギ約10頭、ヒツジ約5頭がいるそうです。ミニプラタたちはミニプラ芸に出場しています。私たちはファーム運営を担当している内田さんに「仕事のやりがい」「モクモクファームのアピール点」「仕事の工夫」についてお話を伺いました。

人と動物をつなげる

私たちは最初に内田さんにモクモクファームでおしごとをしている中でのやりがいについてお聞きしました。

まず一つは、「動物に気持ちが良いこと」だとおっしゃっていました。自分の思っていることやその動物にやってほしいことが言葉以外の行動などで伝わったりしたときだそうです。

二つ目は「人と動物をつなげる」ことだそうです。

モクモクファームに来園してくれたお客さん、特に子供が豚好きになってくれたり、家畜のことを来園前よりももっと好きになってもらえた時などに人と動物をつなげられたと感じるとおっしゃっていました。

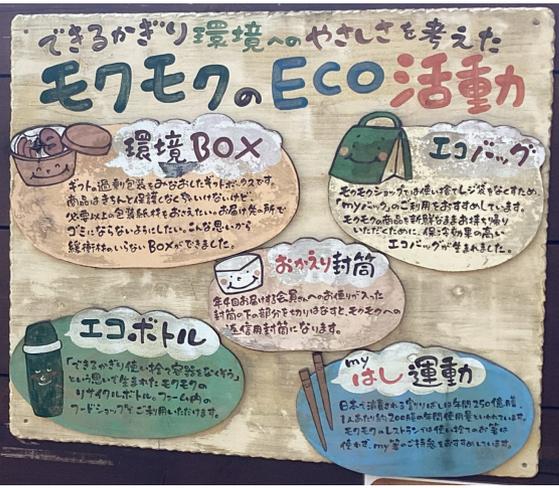
モクモクの魅力を日本全国へ

モクモクファームのアピールポイントについて、お聞きしました。テレビや雑誌に掲載されたり、ネイチャークラブ会員さん（モクモクファームの取り組みに共感して応援してくださっている方々）だけのイベントを開催したり、ホームページやカタログ、インスタなどで魅力的なイベントの開催を宣伝したりしているそうです。

また、モクモクファームのレストランを名古屋や大阪の駅前のビルなどで営業したりしてモクモクファームの魅力をもっと日本全国に広めているそうです。

モクモクファームでは、SDGsのことが話題になる前から心掛けています。自動販売機を置かなようとする、燃えるゴミやプラスチックのゴミは楽しく分別できるようにしたり、レストランでは食べ残しや食べ終わった食器を自分で片付けをするようにしているそうです。

↑モクモクのECO活動



みんなで作るモクモク

アイデアを出すときは、部署によって様々ですが授業の間に雑談するみたいな感じで出し合うそうです。そしてそれが本当に形にできるかをいろんな部署の人たちと相談して、それが決まったら道具を集めたりして最終的にお客さんに出せるように準備するそうです。

モクモクファームの商品が届くまでの流れは、牛の乳を搾ってくれる人、それを使ってケーキやアイスクリームなどを作る人、そしてその商品の魅力をお客さんに伝えて販売する人がいるという仕組みでできているそうです。そのうちの製造やマーケティングの方々がこの商品にしたいののではないかとアイデアを考え、その他のアイデアなども出して新商品を開発しています。

体験教室などは、モクモクファーム内のサービスの分野になるので、ものづくりスタッフたちが作った商品をやってお客さんに体験してもらおうか、どうやったら美味しく食べてもらえるかを考えるそうです。そして、それは季節ごとに体験教室の人たちで考えます。例えば、モクモクのジャージー牛乳を使ったパフェを作るなどがあるそうです。

その他にも、カタログ、通販などでこの商品を出したいのではないかとということなどは企画会議をして決めていきます。



↑お話を伺った内田さん



↑園内にはモクモクの食材を使っているレストランやソーセージ作りを体験できる施設などがあります